

令和3年度教育未来委員会行政視察報告書

教育未来委員長 川合 隆史


【視察日程】 令和3年10月26日（火）

【出席者】 委員長 川合 隆史
副委員長 中村 公江
委員 伊藤 隆広、渡辺 忍、安喰 初美、山田 京子、
村尾 伊佐夫、岩井 雅夫、麻生 紀雄、
宇留間 又衛門
随行員 西森 照泰、丸山 貴裕、茶谷 有美

【視察地及び調査事項】

- 1 教育センター
 - (1) 教育センター各諸室の活用状況について
 - (2) 教育のICT化推進に向けた取組みについて

【視察報告】

調査目的	1 教育センター (1) 教育センター各諸室の活用状況について 現在の教育センター施設は昭和59年に開設し、これまで教育関係職員の研修や教育相談等の学校教育及び社会教育に資する活動のために活用されている。日々教育環境が変化する中で、現在各諸室の活用状況を調査することにより、施設の老朽化が進み、新たな施設として整備する際に必要となる機能について考察する。 (2) 教育のICT化推進に向けた取組みについて GIGAスクール構想に伴い、市内小中学校の児童生徒への1人1台のタブレット端末の配布が完了し、当該タブレット端末（通称：ギガタブ）を活用した授業展開が今年度から本格運用されている。 ICT研究協力校に指定した小中学校を中心にICT教育の充実・推進に取り組んでいるため、活用状況と今後の展開について調査するとともに、委員が実際にギガタブを使用し、今後の教育現場における活用方法の研究を行う。
視察概要	1 調査項目 (1) 教育センター各諸室の活用状況について (2) 教育のICT化推進に向けた取組みについて 2 説明者 <ul style="list-style-type: none">・ 学校教育部長・ 教育センター所長・ 教育センター副所長 ほか 3 現地視察の様子 (1) 教育センター各諸室の活用状況について ① 図書資料室  常時4万点を越える教育関連図書・資料についての説明を受ける

②講堂



開催中の小・中学校教員の初任者研修を視察

③2階ロビー



展示されている教育研究奨励賞受賞者研究物について説明を受ける

(2) 教育のICT化推進に向けた取組みについて



教育センター所長から、本市の目指すGIGAスクールや教育センターの取組状況、学校での活用の様子・成果及び課題と今後検討すべき事項等の説明を受ける



説明を受けながらギガタブを使用して様々なツールを体験

4 主な質疑・意見（□：質疑・意見 ■：答弁）

□ ギガタブの活用が進んでいくと、学校差や個人差が生じてしまう可能性があるがこの点についての対策は。

■ 学校差、個人差については課題と認識している。そこで、例えば、促進している学校の良い取組として、ギガタブタイムの導入というものがある。これは、職員が行っている週に1～2回の打合せの中で、5分間のギガタブタイムを設けて、活用事例などを共有する場を設けている。

これを実施している学校とそうでない学校では相当に格差が出ているため、そういった良い事例などを学校に紹介していくことや、ICT研究協力校の取組や様々なツール、ネットワークの中で意識を高めていくことを考えている。

□ オンライン授業が普及していくと、自宅学習できるので学校に行く必要がないと考えてしまう人が出てくるかもしれない。そうすると、子供が人間関係を築く場が少なくなってしまう懸念があるが、この点についてはどのように捉えているか。

■ オンラインについては、多くの効果が報告されている。

例えば、ギガタブで教室の楽しい様子を見たことで、学校に行ってみようかなと思って実際に通うこととなったであるとか、放課後に、今まで友達と関われなかったのに、関われるようになったというような多くの良い事例が報告されているので、効果があると認識している。

また、学校に行かなくても済んでしまうという声に対しては、直接子供たちが触れ合うことの価値であったり、協同学習を行うことの意

義について伝えていかなければいけないことだと考えている。

□ 本日聞いた話では、現場の教員が教材を作成している印象を受けたが、国、県、市で全ての学校が共有できるようなコンテンツは配信されているのか。

■ 文部科学省で動画コンテンツを作成している。また、効果的な事例を集めたものを教育センターのHPに掲載しており、ギガタブ上でも共有できるようにしている。

□ 家から出られない子供に対するオンラインの活用方法は。

■ 学校に来られない子供については、進んでいる事例がある。

これまで、ずっと家から出られない生徒がいて、最初はギガタブを介して連絡を取ることで、その子の母親とつながりを持ち、先生と母親が楽しそうに話している様子を生徒に伝えた。

次の段階では、ギガタブを介したつながりに生徒が参加するというもので、現在はここまで関係の構築が進んでいる。

ギガタブがそういった生徒とつながる一つのツールになるという期待があるので、進めていくべきではあるが、一方、家から出なくてもいいということにはならないようにしていきたい。

□ デジタル教科書が推進されていくと、紙媒体の教科書が不要となるが、今後の方向性はどのように検討しているのか。

■ デジタル教科書の導入に当たっては、文部科学省の考え方と同様に、あくまでも現段階では紙と併用していくことで進めている。

なお、各教科のデジタル教科書を利用する場合は、各教科の2分の1に満たないよう、使いすぎないようにということで、主に子供たちの健康を守る観点から適切な配慮をといわれているため、どのような場面でデジタル教科書が効果的なのかを踏まえて使い分けていくことが必要と考えている。

□ ICT研究協力校以外に勤務する教員が、ギガタブに新しいソフトを入れたいなどの活用方法を提案した場合は、どのような流れで承認されて、実施していくことになっているのか。

■ 提案を受けて直ちに承認という形は取っていない。

現在は、教育センター側からこういった動画は使用できるといった事例を紹介している。

学校側から提案があった場合は、それが実際に効果的かを検証し、使用の承認を行っている。窮屈ではあるがこのように運用している。

□ ギガタブの導入により自宅でも仕事ができるようになったが、これによって教員の仕事の持ち帰りが生じていないか心配である。これについての状況はどうか。

■ 仕事の持ち帰りや学校内での作業を選べるようになったという効果はあると思うが、仕事の持ち帰りが増えたかという点、一概にそれだけでは言えないと考えられる。

□ 放課後子ども教室や子どもルームで宿題などをするときギガタブは使用できるのか。

■ 放課後子ども教室には、学校の教室の一部空き教室等を活用しているところや、学校から離れた別の施設にルームがある場合がある。

それにより、学校内のWi-Fi環境をそのまま使うことができるルームとそうでないルームがあるため、施設環境に差に影響が出る観点から、所管部署間で話をする中で、現段階では、放課後子ども教室及び子どもルームでの活用は行わない取扱いとしている。

□ 教員の自宅における教材の作成時や、ギガタブでログインしている時間は、働いている時間としてカウントされているということか。

ログインしていた時間体はやはり働いていたと判断すべきあり、働き方の視点としては見ていただきたい。ただし、その辺の管理ができるのかという点が気になった。

■ 本来であれば、労働時間外に学校で業務を行うのが時間外勤務である。それを持ち帰って家でやるというのは、多分、これから増えてくる可能性があるが、現時点でルールを作成していない。これから先、活用の仕方もあるため、それについてはやはり働き方の観点からも、ルール作りをしっかりと行う。

また、管理面については、時間外勤務がサービス残業となってしまうないように課題として認識している。

□ 休校や分散登校の必要性が生じた際、オンライン授業を実施できる学校は何校あるのか。

■ 技術的には全ての学校ができるような状況になっている。

学校を支援するために、9月の中旬に休校と学級閉鎖等が発生した

場合のオンライン授業の手引きを作成して周知を行った。

新型コロナウイルスの第6波が来る前に、全ての学校で実施できる体制にしていきたいと考えている。

- 目や姿勢とかいこの影響は本当に心配であり、電磁波は将来的に健康面へ影響を与える懸念がある。

子供たちの体は発達途上であるため、いろいろな影響を受けやすいということを肝に銘じて、このようなICT機器を活用していただきたい。

また、こういうツールを使用することで長期入院の子供が学校に戻る時のハードルが下がり、学校に戻る準備ができていくことは大事であるため、そういった活用もしていただきたい。

ある程度大きな病院であればそういった環境も整備できると思うので、進めて行って欲しい。

- 健康面については課題としては捉えている。

病院に関しては、市立病院で院内学級を持っている青葉病院にはネットワークが配置されているが、一般的な病院は各病院の環境整備状況によるので検討事項として認識している。

- ネットワーク環境が発展していく中で、今のギガタブは生徒が持ち帰るには重いため、自宅から誰でも子供がアクセスできる環境づくりを意識してソフトウェアなりネットワーク環境を考えていかなければいけないと考える。教育委員会では先を見据えて取り組んでいくべきだと思うが、そのような方向性の検討状況は。

- 今後の発展的な部分について考えていくということは必要と考える。関係機関等から様々な意見をいただき、よりよい環境整備をしていきたい。

- 教室の中で成績表が付けられないということを聞いたことがあるが、それはネットワークでセキュリティーをかけているのか。運用面で先生方にとってよい環境になっているのか疑問に感じるが実態はどのような取扱いとしているのか。実際にそうなっているのであれば、現場の意見を聞き、教職員が求めるシステムの構築を望む。

- 令和6年の第3次キャビネットに向けて検討今始めたところで、現場の先生方にアンケートを行い、色々な観点から、本当に一番使いやすい方法について、専門家のアドバイスもいただきながらしっかり検

	<p>討していきたいと考えている。</p> <p>□ 紙に数字を書くことであるとか、漢字の書き取りであるとか、宿題という、そういった反復練習がこれまでの教育の中では非常に重視されてきた中で、G I G Aスクール構想の下での、書くことであるとか体を動かすこととデジタル機器の活用のバランスはどのように考えているのか。</p> <p>■ G I G Aスクール構想の目的は、デジタルありきではなくて、あくまでも教育の質の向上を図るための手段であるので、その点はしっかりと押さえた上で教育を進めていきたい。</p> <p>これまでの実践、対面の中で積み重ねてきた実践を大切にしながら、対面でできることと、ICTでできることの両面の良さを踏まえながら、教育の質の向上を図るという視点を重視していきたいと考えている。</p> <p>□ 小学校と中学校で、端末の使い方は全然違う用途になると思う。</p> <p>本日伺った内容は非常に小学生の要素が強く感じたので、中学校における活用に関しては、また違った側面で、どのようなバランスで実施していくかということは、しっかりと考えて方向性を出していただきたい。</p>
<p>委員の所感</p>	<p>□ 築50年経過して老朽化が明らかで、改築を前提に検討の必要性があると思う。手狭な環境であるが、様々な工夫による施設利用がされている。</p> <p>□ 初任者研修や不登校児童が対象のグループ活動が実施されていたが、普段から各種の研修がなされ、有効活用されている。今後、工夫された研修がなされるように期待したい。</p> <p>□ 図書室の資料が充実していた。私たち議員も閲覧できるということなので活用したい。ただし、学校現場にいる教員の方がセンターに来所するのは煩雑なため、負担の少ない資料の活用方法を考えていただきたい。</p> <p>□ センターに通っている子供たちの様子が見られて良かった。思ったより明るく元気な様子だった。ここまで来る過程が大変だったのではないかと思う。ここに来られなかった子供たちへの支援も充実させてほしい。部屋が狭そうなので、同様な施設が複数必要と感じた。</p>

	<p>また、子供たち自身がどう思っているのか分からないが、活動場所が地下ではない方がいいと思った。</p> <p><input type="checkbox"/> ギガタブを使って一緒に授業を受けられて楽しく実感できたが、ICT支援員の充実も欠かせないように感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 様々な取組を知ることができた。教育センター（教育委員会）で把握していることと、現場の先生方の認識にはまだまだ差があると感じる。全ての先生がデジタルについての理解を進めるのは難しいので、得意な先生がICTの活用をリードできる環境づくりに力を入れることが必要。学校全体でバランスを取りながら、先生にとっても児童生徒にとってもなるべく楽に活用につながるよう体制づくりを進めて欲しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 体験を通して、ギガタブを使っての新しい学びの可能性を感じることができた。導入した機器を有効に使えるよう、好事例の共有など教育センターからの情報発信をお願いしたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 新しいことに取り組む際に教職員に負担が生じないような配慮が必要だと感じるとともに、子供たちの健康面（視力、電磁波）への影響についての対応についても今後の課題として取り上げていてもらいたい。</p> <p><input type="checkbox"/> オンラインの活用により、不登校や入院中の子供にも光が当たる道が開けたことは喜ばしいと思っている。 一方、教職員の負担増や、人と触れ合いのない学習方法拡大については不安も拭いきれない。 子供と向き合う時間を減らしてまで、ICT化に邁進することのないように、急ぐことなく効果の上がる場面を確認しながら進んでいただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/> GIGAスクール構想が各学校にあまねく進展できるように学校の格差が生じないように取り組んでいただきたい。</p>
--	---